



E-mail:kodomo1@kcv.ne.jp http://hamomira.or.jp/

2022年9月9日発行

# 第103号

認定特定非営利活動法人  
ハーモニーネット未来  
〒714-0081 岡山県笠岡市笠岡 5909  
TEL (0865) 63-4955  
FAX (0865) 63-4950



グッドガバナンス認証  
2022G (0) 0057

## 非営利組織の信頼のあかし！

# グッドガバナンス認証取得

### グッドガバナンス認証とは!!

市民参加の度合い、環境への配慮、財務・会計・社会への情報発信など組織運営に関わる 27 の評価基準を書面と訪問で審査、さらに外部の有識者から成るグッドガバナンス認証審査委員会の審議を経て初めて認証されます。企業や行政などが非営利組織と連携するときの一つの信頼性の指標として、一定水準以上の組織運営能力がこの認証により証明されます。



### 認定NPO法人ハーモニーネット未来のめざすこと

#### 「ふれあい・たすけ愛（地域共生）社会の創出～子どもから高齢者まで安心して自分らしく～」

1987年、子どもたちの心豊かな成長・発達を目的に設立。活動を積み重ねるうちに、子どもにとってのより良い環境は、子どもから高齢者・障がい者・若者、今を生きるすべての人が安心して自分らしく生活できる地域共生社会だと気づき、活動が広がってきております。

ふれあい、助け合い社会をめざし、生活の中の困りごとの解決のために地域力を活かした生活支援「ふれあい・たすけ愛サービス事業」、現在、社会問題となっている「子どもの貧困」対策として、ひとり親・生活困窮家庭のための「いのちまるごとプロジェクト」事業等、ニーズに対応した事業を実施しています。

また、子どもから高齢者まで安心して「ほっとできる居場所」が大切と考え、「子育てひろば」「ふれあいひろば」等の居場所を創っております。

NPO法人は社会にあるさまざまな課題の解決のための仕組みづくりや事業化などを実施することにより、より良い社会への変革を大きな目的にしています。

支援という言葉は真におこがましいですが、支援を必要としている人たちの満足度を、関わっている我々の満足度を、そして社会全体がよくなる「三方良し」となる活動を積み重ねていきたいと願っております。

貧困等、個人の課題を社会全体の問題ととらえ、行政・企業・各種団体や市民等、それぞれのもっている強み、得意分野、もてる力を出し合い、社会全体で解決していく支援体制の仕組みを構築していきたいと思っております。

他者の「困りごと」を「我がこと」ととらえ、「まるごと」引き受けるといふ「支えあい文化」が、我々のめざす、『安心して自分らしく生きていくことのできるたすけ愛（地域共生）社会』につながると考えております。

### 【目次】

|               |      |
|---------------|------|
| グッドガバナンス認証    | P1   |
| 行事報告          | P2~3 |
| 本が好き          | P4   |
| 一日一題          | P5~7 |
| 子どもの貧困        | P8   |
| 食卓に吹く風        | P9   |
| ふれあい・たすけ愛サービス | P10  |
| ハーモニー西大戸      | P11  |
| お知らせ          | P12  |

## ■行事報告 子育てひろば「あおぞら」

### ■『救命救急 ～とっさの時の対処法』

7月12日(火)

10:30～11:30

場所：笠岡市市民活動  
支援センター  
2F 第1会議場

参加者：幼児4名  
大人9名  
計13名

講師：笠岡市笠岡消防署  
田中竜弥さん  
高瀬晃さん



子どもに何かあった時、とっさの時にどうしたらいいのか、対処法としての心肺蘇生法や AED の使い方など非常時に必要な応急手当の知識を身につける講習を行いました。

心肺停止になった場合には 救急車の到着までに速やかに応急手当を行うことが重要で落ち着いて対処する大切さも学びました。

今回は参加者に実際に「119」番通報をしてもらい救命救急士さんの指示に従って心肺蘇生や AED を用いた除細動を行う訓練もしました。普段、119 番通報をすることもないので とてもよい訓練になりました。

誤飲、やけど、頭を打った時など、子どもに起こりやすい事故やケガの対処法も合わせて教えてもらい、真剣に聞き、質問もしていました。

この研修を通し 実際にその状況に置かれた時に、冷静に対応してもらえたらと思いました。



ママたち携帯を使って司令塔からの指示を受けながら心肺蘇生しています。



真剣に質問を聞いて学んでいます。



笠岡消防署の消防士さん  
カッコイイ♡



心肺蘇生や AED を  
使った訓練の様子



熱心に質問をしている様子

## ■ 行事報告 大井児童館

大井児童館イベント

### ■ 『外遊びクラブ』

7月24日(日)

14:00~15:30

場所：大井児童館

参加者：小学生 10名

高校生 1名

大人 4名

計 15名

内容：テーマ「水遊び」

- ・ 鬼ごっこ
- ・ 水風船遊び
- ・ 水鉄砲を的あて 等

暑い夏休み、園庭での「水あそび」、おもいっきり身体を動かして、心も身体も開放！

家からマイ水鉄砲や、水鉄砲の的を手作りして持ってきて、びしょぬれになってもいいように着替えも準備OK！



全身びしょぬれ💧きもち〜い

水風船にパンパンに水を入れたり友達同士お互いに刺激を受けながら、一緒に遊んで楽しめるアイデアをどんどん実践していました。

今回のイベントは、子どもたち自身で企画したもので、それを更に盛り上げようという子どもたちの一生懸命な姿から、このコロナ禍の中でも「思いっきり遊ぶこと」はとても大切な活動だと改めて感じました。



竿につけた丸い的は、クラブの子が考えて作ってくれたもの。  
この竿を持ってボランティアの高校生が走ります！ 追いかけて水鉄砲で打ち抜け！



半紙を背中につけて、サバイバルゲーム!?



まずは、水鉄砲の性能を 的あてで確認☺

■阿藤美穂子

とてもお得なエッセイ集を見つけました！  
三浦しをんさん、吉本ばななさんなどなど、  
14人の人気作家のエッセイがなんと、一冊  
で読めちゃいます。

14人の中には、岡山県出身の重松清さん、  
小川洋子さんも入っています。

それぞれの作家さんの日常が、朝、夕暮れ、  
午後11時の時間帯に分けて描かれています。  
共感するところがいろいろあって、作家さん  
を身近に感じることができました。

それぞれのエッセイの間のイラストにも癒  
されました。



『とあるひととき  
—作家の朝、夕暮れ、午後十一時—』  
作：三浦しをん他13名  
出版社：平凡社



『お月さんのシャーベット』  
作：ペク・ヒナ  
訳：長谷川義史  
出版社：ブロンズ新社

毎日暑い日が続いていますが、みなさま、  
お元気ですか？

暑くて暑くて眠れない夏の夜、清涼剤の  
ようなこの絵本はいかがでしょう。

暑くて寝苦しい夏の夜、お月さんから  
ぽた…ぽた…としずくが…、えらい  
こっちゃん、お月さんがとけてはるがな。  
お月さんのしずくを集めたおばあちゃんは、  
シャーベットのかたにながして冷凍  
庫に入れました。

お月さんのシャーベット どんな味なん  
だろう。

ペク・ヒナさんの独特のファンタジー世  
界と長谷川義史さんのやわらかい関西弁  
の訳がコラボした今の季節にぴったりの  
お話です。

ウクライナ情勢から目を離すことができませぬ。21世紀の今、こんなことが起きるなんて…。愛してきた命が、思い出のある家が、街が破壊されているのです。

「子どもたちの生きる未来が、平和で明るいものであってほしい」と何回、言ってきただろうか。戦争はすべての人に影響を与え、生活、経済、文化、芸術、音楽、夢や希望を奪っていきます。そして環境破壊も大きい。

1984年、琵琶湖の富栄養化に悩む滋賀県の呼び掛けで国際会議「世界湖沼会議」が開かれ、合成洗剤の害がクローズアップされました。当時、妊娠中だった私は、水環境だけでなく、

### 平和は基本

人体を守るためにもより良い洗剤を求め、一人で「せっけん運動」に取り組みました。

子どもが生まれると「健康な身体と精神を」と、安心安全な「食」を求め生協へ加入。その頃、「純パルプからできている牛乳パックは紙に再生で

#### 一日一題

きる」という記事を読み、生協の仲間と85年から「牛乳パック回収運動」を始めました。回収運動は笠岡市と山梨県からスタートし、われわれは生協を通じて全国に広がっていきまし

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵

す。活動から時間がたち、ふと後ろを振り返ると、そこに道ができていた。これが「市民運動」と、学んだ気がしています。

先日、孫と笠岡市のカブトガニ博物館・恐竜公園に行った時、すてきな藤棚があり、「これは牛乳パック回収記念で植樹したあの藤では」と思い起し、感動しました。

今、国連が提唱する「SDGs」の下、世界中の人々が力を合わせ、持続可能な社会を目指しています。目標の実現のためにも「基本は平和」ではないでしょうか。今を生きる子どもたち、すべての人のためにも！

2022.6.16

助け合いの共生社会を目指す公益財団法人「さわやか福祉財団」の会合があり、3年ぶりに万全の注意を払い、覚悟を持って東京へ行きました。大きい会場で密にならないよう、また換気にも配慮があり、仲間との再会がとてもうれしく、大いに楽しんできました。あらためて気の合う仲間とのふれあい、交流の重要性、必要性を実感しました。それはお互い、受け入れ合う心地よさでしょうか。

突然始まった新型コロナウィルス禍は瞬く間に広がり、密にならない、集まらないように、と多くのイベント、お祭り、交流会などがなくなり、われわれも子どもたちの成長、発達に不可欠なふれあいの場やさまざまな体験活

### 受け入れ合う心地よさ

動をやむなく中止としました。

「笠岡子ども劇場」（現・ハーモニーネット未来）の設立以来、多くの人との出会い、ふれあい、つながりを大切に、「子どもは人の輪の中で育てましよう」とメッセージを発し、親たちにも「いろんな人にだっこして

#### 一日一題

もらいよ」と伝えてきたように思えます。

「コロナ禍の影響は実に多くありますが、ふれあいがなくなり、自粛生活を余儀なくされたことの影響はすべての年代に及んでいます。近年、地域のつながりが希薄になったとよく言われま

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵

すが、私は地縁のみならず、血縁までも希薄になったのではと感じています。だからこそ、子どもから高齢者まで、そこいって、なにも装いとな、ほっとできる居場所を求めているような気がし、安心して自分らしくいられる場を多く創ってきました。

最良の居場所は家庭、家族、親族だと思いますが、それに加えて職場、趣味、ボランティアなどで共感できる人、自分のあるがままを受け入れてくれる人と出会ったためにも、多くのふれあいの場が必要なのではないでしょうか。他者に「だっこ」してもらってもいいという信頼でできる関係性を構築するためにも。

2022.6.9

年月がたつのは早いもので、子ども時代が豊かなものであってほしいと「笠岡子ども劇場」を設立して35年。目的実現に向けて事業を継続できたのは行政、企業、各種団体、多くの人たちに支えていただいたたまものあり、仲間と共に学び、喜び、失敗、刺激もありながら、楽しんで歩んできたように思います。何より人との出会い、つながりが財産となりまし

た。

「子ども劇場」は56年前、福岡県の市民活動から始まりました。「子どもも大人も共に育ちあう地域を創ろう」と親子で優れた舞台芸術を鑑賞する活動と友情や自主性を育む子ども活動を2本柱とし、その理念は瞬く間に全国

### 地域共生社会を目指して

に広がりました。

この間、社会は目まぐるしく変容し、市民活動も1998年の特定非営利活動促進法（NPO法）施行とともに大きく変わってきました。われわれも法

#### 一日一題

るさまざまな課題を解決すること、より良い社会を創出していきたいと願い、現在、目指すテーマに「ふれあい、たすけ愛（地域共生）社会の創出」子どもから高齢者まで安心して自分らしくい」を掲げ、多くの事業を実施しています。

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵



◇筆者紹介（うの・まさし）子どもたちの心豊かな成長を願い1987年、「笠岡子ども劇場」の設立に携わり、現在に至る。99年にNPO法人格取得。2013年、認定NPO法人に移行。すべての人が安心して自分らしく生活できる地域共生社会を目指し16年、「ハーモニーネット未来」に改称。笠岡市在住。72歳。

子ども劇場からスタートしたわれわれがなぜこのテーマになったのか、子どもから高齢者、障がい者、若者、今を生きるすべての人にとってより良い地域共生社会とは。35年間を振り返りながら、あらためて問い直していきたいと思えます。

2022.6.2

2022年6月から8月まで山陽新聞の「一日一題」に、認定NPO法人ハーモニーネット未来理事長が投稿いたしました。当法人の歴史が分かりやすく書いてあります！皆さまご覧ください。

ウクライナ情勢から目を離すことができせん。21世紀の今、こんなことが起きるなんて…。愛してきた命が、思い出のある家が、街が破壊されているのです。

「子どもたちの生きる未来が、平和で明るいものであってほしい」と何回、言ってきただろうか。戦争はすべての人に影響を与え、生活、経済、文化、芸術、音楽、夢や希望を奪っていきます。そして環境破壊も大きい。

1984年、琵琶湖の富栄養化に悩む滋賀県の呼び掛けで国際会議「世界湖沼会議」が開かれ、合成洗剤の害がクローズアップされました。当時、妊娠中だった私は、水環境だけでなく、

## 平和は基本

人体を守るためにもより良い洗剤を求め、一人で「せっけん運動」に取り組みました。

子どもが生まれると「健康な身体と精神を」と、安心安全な「食」を求め生協へ加入。その頃、「純パルパ」からできている牛乳パックは紙に再生でき

### 一日一題

「地球環境を守ろう」という機運の高まりが追い風になったように思います。子どもたちの生きる」という記事を読み、生協の仲間と85年から「牛乳パック回収運動」を始めました。回収運動は笠岡市と山梨県からスタートし、われわれは生協を通じて全国に広がっていきま

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵

活動から時がたち、ふと後ろを振り返ると、そこに道ができていた。これが「市民運動」と、学んだ気がしています。

先日、孫と笠岡市のカブトガニ博物館・恐竜公園に行った時、すてきな藤棚があり、「これは牛乳パック回収記念で植樹したあの藤では」と思い起こし、感動しました。

今、国連が提唱する「SDGs」の下、世界中の人々が力を合わせ、持続可能な社会を目指しています。目標の実現のためにも「基本は平和」ではないでしょうか。今を生きる子どもたち、すべての人のためにも！

2022.6.16

## 受け入れ合う心地よさ

助け合いの共生社会を目指す公益財団法人「さわやか福祉財団」の会合があり、3年ぶりに万全の注意を払い、覚悟を持って東京へ行きました。大きい会場で密にならないよう、また換気にも配慮があり、仲間との再会がとてうれしく、大いに楽しんできました。あらためて気の合う仲間とのふれあい、交流の重要性、必要性を実感しました。それはお互い、受け入れ合う心地よさでしょうか。

突然始まった新型コロナウイルス禍は瞬間に広がり、密にならない、集まらないように、と多くのイベント、お祭り、交流会などがなくなり、われわれも子どもたちの成長、発達に不可欠なふれあいの場やさまざまな体験活

動をやむなく中止しました。

「笠岡子ども劇場」（現・ハーモニーネット未来）の設立以来、多くの人との出会い、ふれあい、つながりを大切に、「子どもは人の輪の中で育てましょう」とメッセージを発し、親たちにも「いろんな人にだっこして

### 一日一題

もらいよ」と伝えてきたように思います。

コロナ禍の影響は実に多くあります。が、ふれあいがなくなり、自粛生活を余儀なくされたことの影響はすべての年代に及んでいます。近年、地域のつながりが希薄になったとよく言われま

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵

すが、私は地縁のみならず、血縁までも希薄になったのではと感じています。だからこそ、子どもから高齢者まで、そこにいて、なにも装わずにほんのりできる居場所を求めているような気がし、安心して自分らしくいられる場を多く創ってこきました。

最良の居場所は家庭、家族、親戚だと思えますが、それに加えて職場、趣味、ボランティアなどで共感できる人自分のあるがままを受け入れてくれる人と出会うためにも、多くのふれあいの場が必要なのではないでしょうか。他者に「だっこ」してもらってほしいという信頼できる関係性を構築するために。

2022.6.9

年月がたつのは早いもので、子ども時代が豊かなものであってほしいと「笠岡子ども劇場」を設立して35年。目的実現に向けて事業を継続できたのは行政、企業、各種団体、多くの人たちに支えていただいたたまものであり、仲間と共に学び、喜び、失敗、刺激もありながら、楽しんで歩んできたように思います。何より人との出会い、つながりが財産となりました。

「子ども劇場」は56年前、福岡県の市民活動から始まりました。「子どもも大人も共に育ちあう地域を創ろう」と親子で優れた舞台芸術を鑑賞する活動と友情や自主性を育む子ども活動を2本柱とし、その理念は瞬く間に全国

## 地域共生社会を目指して

に広がりました。

この間、社会は目まぐるしく変容し、市民活動も1998年の特定非営利活動促進法（NPO法）施行とともに大きく変わってきました。われわれも法人格を取得し、その後、名称を「ハーモニーネット未来」に変更。社会にあ

### 一日一題

るさまざまな課題を解決すること、より良い社会を創出していきたく願います。現在、目指すテーマに「ふれあい、たすけ愛（地域共生）社会の創出」子どもから高齢者まで安心して自分らしくく」を掲げ、多くの事業を実施して

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵



◇筆者紹介（うの・まこと）子どもたちの心豊かな成長を願い1987年、「笠岡子ども劇場」の設立に携わり、現在に至る。99年にNPO法人格取得。2013年、認定NPO法人に移行。すべての人が安心して自分らしく生活できる地域共生社会を目指し16年、「ハーモニーネット未来」に改称。笠岡市在住。72歳。

子ども劇場からスタートしたわれわれがなぜこのテーマになったのか、子どもから高齢者、障がい者、若者、今を生きるすべての人にとってより良い地域共生社会とは。35年間を振り返りながら、あらためて問い直していきます。

2022.6.2

2022年6月から8月まで山陽新聞の「一日一題」に、認定NPO法人ハーモニーネット未来理事長が投稿いたしました。当法人の歴史が分かりやすく書いてあります！皆さまご覧ください。

7人に1人の子どもが貧困状態にあるとされる現在、私たちの「いのちまるとプロジェクト」は、「食べる・学ぶ・暮らす」という人が生きていく上で大切なことを柱に組み立ててきました。

「貧困の連鎖」は「教育の格差」と言われます。経済的理由から学校に行けない、やりたい勉強ができない。そんなことがないように、子どもの「やってみたい」を応援するため、一人一人に合ったテキストとオンライン動画で学習をサポートする事業を2020年に始めました。ボランティア講師に心より感謝しております。

「体験の格差」もあります。家族で

## 助け合いの仕組みを

誕生日の祝いをしてもらえない▽家に本がない▽文化芸術に触れる機会がない▽部活動に参加したことがない…。親が忙しくて、ご飯を一人で食べる孤食の寂しさから、ゲームに依存している子どもも多いと言われています。

### 一日一題

家族や親族の愛情や絆、友だちと遊びに熱中した思い出、スポーツ、自然文化体験、部活動といった経験が多いほど、「コミュニケーション力や自己肯定感など」社会を生き抜く力が豊かになるとされます。体験の質と量が、その後の人生に大きく影響すると考え

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵

られます。昔も貧困はあったでしょう。では何が違うのか。人間関係が今のようになり薄くはならず、密であったと思います。かすかな記憶ですが、小さい頃、母と「無尽講」に行きました。地域の人がちが毎月お金を出し合い、必要な家が順番に使う「互助救済」だったそうです。

貧困という個人の課題を、社会全体の問題と捉え、誰もが安心して自分らしく生活できる社会を目指したい。行政や企業、各種団体、そして多くの人と持てる力を出し合い、助け合いの仕組みを構築していきたいと願っております。

2022.7.14

「困ったときはお互いさまー」「大きな家族のように！」を合言葉に、私たちが実施している生活支援「ふれあい・たすけ愛サービス事業」のニーズが超高齢社会を迎え、高まっています。

この事業は、介護保険法や障害者福祉、子育てなどの公的支援制度では対象とならない「隙間」を埋めるものです。「掃除や洗濯、料理をしてほしい」「買い物や病院に付き添ってほしい」といった生活の中のこととした困り事、願い事に対し、地域の力を活用して助け合おうと2009年に始めました。

会員制の有償ボランティア活動としてるのが特徴。サービスの利用者として

## ふれあい・たすけ愛

提供する協力を分けることなく、皆さん「ふれあい会員」になっていただきます。利用者には1時間当たり一定額を「ふれあい切符」（時間通貨）で支払っていただき、協力者への謝礼や交通費、事業の運営費に充てています。

### 一日一題

車を運転できたり、身の回りのことを自分でできたりすれば、困ることは少ないでしょう。それでも、いざというときに「手助けしてもらえら」という安心感を提供していきたいと思っています。

困ったときや手伝いがほしいときで

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵

も、「助けて」とはなかなか言えないものです。誰か一人でもいいから遠慮なく「手伝って」「助けて」と言える関係性があればいい。そのためには日頃の交流、ふれあいが大切。そこから信頼関係ができ、お互いに助け合うことで生活が豊かになるのではないでしょう。

私の「してほしいこと」は、誰かが「できること」かも。私の「できること」は、誰かが「してほしいこと」かも。いつでも、どんなことでも気軽に頼み合えれば幸せ。「助けてくれて、ありがとう！」「必要としてくれて、ありがとう！」を橋渡しする事業に育っています。

2022.7.21

今、われわれが目指しているテーマは「ふれあい、たすけ愛（地域共生）社会の創出」。子どもから高齢者まで安心して自分らしく」。中でも私は「安心」がキーワードだと思っています。安心があつてこそ、自分の気持ちを大切に、心に正直に、自分らしく生きていけるのではないのでしょうか。

人生の営みの中で何か困った時、話を聞いてもらうだけで解決につながることもあるでしょう。それでも難しい場合は、行政や専門職などと連携して解決してくれるという「安心感」を提供していただきたいと思っています。

NPO法人は、社会のさまざまな課題

## 安心して自分らしく

題の解決を目指し、そのための仕組みを考え、事業を実施し、より良い社会をつくることを大きな目的としています。活動を始めて35年、目的を実現するために、何をどうすればいいのかと考え続けてきましたが、明確な答えが出ないのも現実。それでも課題と感じ

### 一日一題

ることを、仲間と力を合わせて解決していく過程は、悩みもあるけれど、楽しく、うれしいものです。

「支援」という言葉は誠におこがましいのですが、必要としている人も関わっているわれわれも満足でき、その結果、社会全体が良くなるという三

認定NPO法人  
ハーモニーネット未来理事長 宇野 均恵

方良し」の活動を積み重ねていきたいと願っています。

今も昔も大切なのは「困った時はお互いさま」の精神です。

貧困など個人の課題を社会全体の問題と捉え、行政、企業、各種団体、多くの市民の皆さんらと、それぞれの強みや得意分野、持てる力を出し合いながら解決していく支援の仕組みを構築したい。他者の「困りごと」を「わがごと」と考え、「まるごと」引き受けていくという「支え合い文化」を育みたい。それが、誰もが安心して自分らしく生きていける「たすけ愛（地域共生）社会」につながると信じています。

2022.7.28

## ■アインシュタインとフロイトの手紙

### ■小角靖子

暑い暑い夏。気候危機の目前への現れの酷暑。この夏には加えて新型コロナウイルス感染と戦争がある。信じられない、でも現実だ。古い本がすごい勢いで読まれているので、もうお手元にあるかもしれないけれど、ご紹介します。

### ■ひとはなぜ戦争をするのか

1932年国際連盟がアインシュタインに依頼しました。「今の文明においてもっとも大事だと思われる事柄を、いちばん意見を交換したい相手と書簡を交わしてください」。

アインシュタインの選んだ相手はフロイト、テーマは「戦争」でした。

時は人類史上初の総力戦である第一次世界大戦の直後。大量の近代兵器の投入でおびたらしい死者をもたらしていました。

当時アインシュタイン 53 歳、フロイト 76 歳、ともにユダヤ人でした。

アインシュタインは悩みぬいた末の問いかけをフロイトにしています。

「人間には本能的な欲求が潜んでいる。憎悪に駆られ、相手を絶滅させようとする欲求が」。

つまり戦争は、人間の攻撃的な本性ゆえに、けっしてなくなるのだ。

あなたはどうか考えるかと。

2ヶ月後、このアインシュタインの問いかけの手紙に約四倍もの返信をフロイトは送りました。それは、人間には「死の欲動」があり、自分をも他者をも滅ぼそうとする備わったものがあるので、戦争はなくなるだろうという驚くべき返答でした。この「死の欲動」についてはいろいろの意見が今も交わされています。

それに加えて、人間の欲動は複合的なものなので「生の欲動」に働きかけることで「死の欲動」が弱まり戦争が止められる可能性がある。そして戦争を心の底から憎む気持ちは、人間の文化の活動から生まれると、フロイトは言います。

「文化の発展を促せば、戦争の終焉に向かって歩みだせます」これがフロイトの結論です。

90年後、ウクライナ戦争が100日以上続いている人類の現実をみる時、フロイトのいう「文化」はまだまだ未来のものであると考えざるを得ません。それでも、「文化の力」に信頼をよせて歩むことしか、人類には方法はないのだと思います。

解説にのっている精神科医の斎藤環氏の文章も、多くの示唆に富んだ読み応えのあるものです。

90年前の手紙が今も生きる不思議さと悲しみをかみしめながら、いろいろのことを考えさせられました。



著：アインシュタイン・アルバート  
著：フロイト、ジグムント  
訳：浅見 昇吾  
講談社学術文庫



# ■食卓に吹く風（38） ～なぜ低い日本の男女平等ランキング～

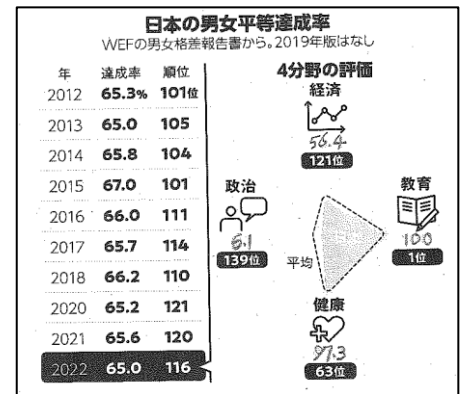
## ■主要先進国で最下位

最近ジェンダーという言葉が、新聞やテレビに頻繁に登場するようになりました。1999年に「男女共同参画社会基本法」が制定されたのを契機に「ジェンダー」という用語が普及したようです。社会的意味あいからみた男女の性差のことをいいます。

記憶に新しい「女性がたくさん入っている会議は時間がかかる」という森発言は、多くの新聞紙上にジェンダー関連記事が飛躍的に増える効果をもたらしました。

女性たちは、世の中に森さんのような男性は普通に居るが、自分の意見(発言)を封じわきまえる生き方はしたくないと、「#わきまえない女たち」がネット上で抗議の声を上げたのでした。

7月14日の朝日新聞に、「男女平等日本116位、先進国中 最下位」という見出しで、今年の世界経済フォーラム発表の「ジェンダーギャップ報告書」が載っていました。世界146ヶ国を対象に教育・健康・政治・経済の4分野を分析し、閣僚の数や賃金の男女差などを比べて「平等」への達成率を指数化しています。



## ■政治と、経済分野での遅れ

13回連続で首位のアイスランドの平等達成率は90.8%で、女性が首相に就いている国々は上位10ヶ国に入っています。

日本は政治と経済分野で遅れが目立ち、国会議員や閣僚、会社の女性管理職の割合が低いのが問題です。国や企業の重要な決定をする立場に女性が少ないことが、いつまでも世界標準に追いつけない原因といえるでしょう。

またパートや非正規雇用で働く女性が圧倒的に多いので、コロナ禍のなか女性の自殺者や生活困窮者が今までになく増え、特にシングルマザー家庭の大変さは実感できます。

3人寄れば文殊の知恵というように、様々なバックグラウンドをもつ人々が集まれば、従来にない意外性のあるアイデアが飛び出します。男性と女性の視点はおのずから違いますし、母性をもち、主婦経験もあると、それが経済活動や政治に大いに生かされる筈です。日本の経済が停滞している一因も、女性の力を十分に生かしきれていないからではとってしまう。

## ■なぜ通らない選択的夫婦別姓制度

婚姻時に夫婦同性か別姓かを選べるようにするのが選択的夫婦別姓制度。導入については、法制審議会で民法改正の答申が25年前に出されたまま、未だに国会を通っていません。世論調査でも賛成派が多数になり、制度の実現を求める意見書は296の地方議会で採択されています。

女性がキャリアをもって仕事に取り組むなかで、結婚・離婚で姓を変えなければならない不利益は女性の社会活動の足をひっぱることになり、ジェンダー平等とはいえません。経営者が呼びかけ人となって発足した「選択的夫婦別姓の早期実現を求めるビジネスリーダー有志の会」が、ビジネスの視点からも民法改正が必要だと記者会見で訴えました。昨年の自民党総裁選の後のことで、政治へのアピールが目的だったのでしょうか。

政府自民党は安倍元総理や高市氏ら根強い反対派議員がいて、党として賛成できないのです。「家族の絆が壊れる」という家族観は、共稼ぎが一般的になった家族の形や時代の流れに説得力をもちません。昨年、高市氏ら50人の自民党国会議員が全国42道府県議会の議長宛てに、「選択的夫婦別姓制度の実現を求める意見書」を採択しないよう求める文書を送ったそうです。選ぶことができるという法律に何故ここまで反対するのか意味不明で疑問に思います。性的マイノリティー(LGBTQ)も含めた多様性の重視は時代が求めるものだと思います。(石井広子)

## ■笠岡市補助事業

# ～安心をキーワードに行う互助システム～ 生活支援「ふれあい・たすけ愛サービス事業」

■困った時はお互いさま  
大きな家族のように！

### 【目的】

公的な制度では対象とならない、さまざまな生活課題を解決するために、多様な社会資源を活用した地域力による有償ボランティア活動（時間通貨）で行う互助システムを構築、実施することにより、いつまでも住み慣れた自宅で、安心して自分らしい生活ができる地域社会の創出をめざす。

ふれあい会員  
大募集中！！  
(利用・協力)

本事業は、  
赤い羽根共同募金会  
「地域ささえあいプロジェクト」の助成を受けて、運営しております。

「困った時はお互いさま」「大きな家族のように」を合言葉に実施しています。本事業は、超高齢社会をむかえた今、ニーズが高まっています。

この事業は、高齢者の介護保険法、障がい者福祉、子育てなどの公的支援制度では対象とならない“隙間”を埋めるもので、「掃除や洗濯、料理をしてもらいたい」「買い物や病院に付き添ってほしい」といった生活の中のちょっとした困りごと、願いごとに対し、地域の力を活用して助け合う活動です。

### 【仕組み】

■利用・協力者全員「ふれあい会員」として登録

- ・入会金 2,000 円
- ・年会費 3,000 円

#### 利用

60分 10点 1,000円  
交通費 2点 200円  
-----  
合計：12点 1,200円

#### 活動

60分 10点 600円  
交通費 2点 200円  
-----  
合計：12点 800円

### キーワード

- ✿困った時はおたがいさま！
- ✿大きな家族のように！
- ✿私を助けてくれてありがとう！
- ✿私を必要としてくれてありがとう！

## ふれあい・たすけ愛サービス事業

### 仕組み



### ■互助「たすけあい」の仕組みづくり

- 利用・協力者全員「ふれあい会員」に登録し、会員同士の互助、助け合い活動です。
- 私が困った時に、だれかに助けてもらう。  
⇒助けてもらうことで生活が豊かになる。
- 私ができることを、困っている人に提供する。  
⇒人の役に立つことで私自身が豊かになる。

### ■活動内容

- ◎家事支援：食事づくり・洗濯・布団干し・買い物代行・掃除・ゴミだし 等
  - ◎同行・外出支援：病院・薬局・美容院・買物等
  - ◎簡単な介助：見守り・産前、産後の手伝い、散歩 等
  - ◎付添・外出支援（病院・美容院・買い物等）
  - ◎その他：話し相手・PC入力・草取り・庭木の手入れ・墓地清掃・旅行同伴 等
- ・なんでも相談ください。

■ 小規模多機能型居宅介護 ささえ愛の家ハーモニー西大戸  
 住み慣れた自宅での生活、  
 あきらめないで!

■ 「安心」をキーワードに  
 最期まで、自分らしく  
 を支えます

誰もが、年をとっても、介護が必要になっても、住み慣れた自宅や地域の中で家族や親しい人たちと共に、最期までその人らしい人生を送りたいと望んでいます。

「ささえ愛の家ハーモニー西大戸」は、いつまでも自宅での生活を送り続けたいという人や家族の願いに応えます。

介護を必要とする人の自宅を中心に、本人の状態や家族の必要に応じて、「通い」「訪問」「宿泊」の3つの在宅介護サービスを組み合わせて365日24時間体制で利用者と家族を支えるサービスです。



大好きなおじちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らしたい  
 これからも住み慣れた家で暮らしたい  
 でも 体力も気力ももう限界  
 でも このままではもう家では暮らせない  
 住み慣れた自宅での生活、あきらめないで!  
 3つの在宅介護サービスを365日24時間体制で組み合わせて、利用者と家族を支えます!  
 介護スタッフ募集中!! やりがいのある職場で一緒に働かせませんか?  
 安心をキーワードに最期まで自分らしく支えます  
 認定NPO法人 ハーモニーネット未来 (旧:子ども高齢者センター)  
 小規模多機能型居宅介護 ささえ愛の家  
**ハーモニー西大戸**  
 TEL 0865-61-4767 FAX 0865-66-3242  
 ☎714-0072 岡山県笠岡市西大戸610 メール harmonynisloodo@gmail.com  
**利用者募集中**

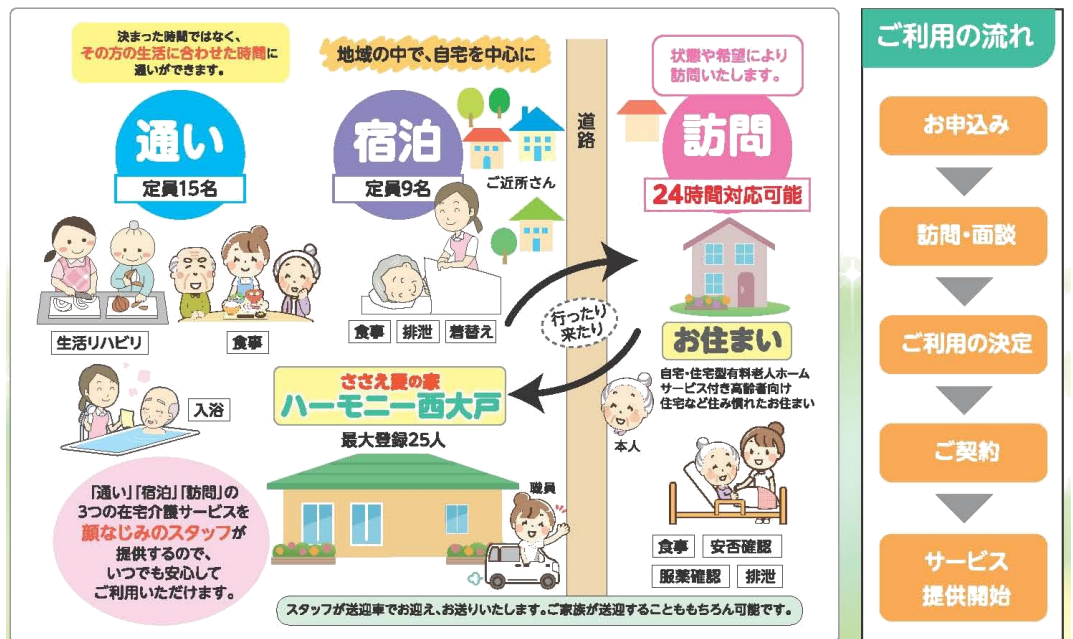
認定NPO法人 ハーモニーネット未来  
 小規模多機能型居宅介護  
**ささえ愛の家**  
**ハーモニー西大戸**とは?

「人」・「家族」・「地域」のケアを実現できる  
**「安心の介護サービス」**です。

介護や支援が必要となっても、住み慣れた地域や自宅で最期まで安心して、自分らしく暮らし続けたい…。  
 小規模多機能型居宅介護は、介護を必要とする人の自宅を中心に、本人の状態や家族の必要に応じて、「通い」「宿泊」「訪問」の3つの在宅介護サービスを365日24時間体制で組み合わせて、利用者と家族を支える登録制のサービスです。

お問い合わせは

**0865  
 (61)  
 4767**



# ■ハーモニーネット未来からのお知らせ

(問い合わせ：0865-63-4955)

## 9月からの予定

インターネットから

ハーモニーネット未来 検索

クリック

※ホームページでも右記の予定を  
みることができます。

| 日 程     | 時間     | 内 容                          |
|---------|--------|------------------------------|
| 9/10(土) | 10:00～ | 絵画教室(事務所2F)                  |
| 11(日)   | 10:00～ | 文章教室(事務所2F)                  |
| 17(土)   | 10:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」①          |
|         | 13:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」②          |
| 20(火)   | 10:00～ | びゅあカフェ(事務所)                  |
| 24(土)   | 10:00～ | 絵画教室(事務所2F)                  |
| 10/2(日) |        | フード&ライフドライブ「てとて」             |
| 8(土)    | 10:00～ | 絵画教室(事務所2F)                  |
|         | 10:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」③          |
|         | 13:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」④          |
| 9(日)    | 10:00～ | 文章教室(事務所2F)                  |
| 22(土)   | 10:00～ | 絵画教室(事務所2F)                  |
|         | 10:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」⑤          |
|         | 13:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」⑥          |
| 30(日)   |        | フード&ライフドライブ「てとて」             |
| 11/6(日) | 10:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」⑦          |
|         | 13:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」⑧          |
| 12(土)   | 10:00～ | 絵画教室(事務所2F)                  |
|         | 10:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」⑨          |
|         | 13:00～ | 「寄りそう人、そだてるプロジェクト」⑩          |
| 13(日)   | 10:00～ | 文章教室(事務所2F)                  |
| 19(土)   | 14:30～ | 舞台鑑賞「わいてくるくる おんがっかい」(ロバの音楽座) |



※予定が変更する場合があります。ハーモニーネット未来  
(TEL0865-63-4955)までお問い合わせください。  
※事務所とは、ハーモニーネット未来のことです。  
※「びゅあそ〜る」(事務所2F)毎週火曜日 10:00～  
※移動ひろば「あおぞら」 毎週火・木曜日 10:00～  
※「おはなしの会」毎週水曜日 10:30～、

「レシート1枚」でできる支援!

毎月11日はイエローレシートの日  
買い物したら、店内設置のボックスに  
黄色いレシートを入れてください。  
1%が、ハーモニーネット未来に寄付されます。

場所：マルナカ笠岡店

## 次回舞台鑑賞のお知らせ

### ロバの音楽座



中世・ルネサンス  
時代の古楽器や  
空想楽器により  
繰り広げられる  
音のファンタジー  
ワールド♪

2022年  
11月19日(土)14:30～

笠岡市保健センター  
ギャラクシーホール

みんな あそびにおいでよ!



第24期通常  
総会、無事  
終わりました



新しい年度のスタートです!  
「ふれあい・たすけ愛(地域共生)  
社会の創出～子どもから高齢者  
まで安心して自分らしく～」  
目的実現に向けて、理事スタッ  
フ、力を合わせていきたいと思  
います。今後とも、どうぞよろしくお  
願します。